

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	尾崎 有飛
主な担当科目	これからのピアノ表現Ⅰ_A,これからのピアノ表現Ⅰ_B,これからのピアノ表現Ⅱ_A,これからのピアノ表現Ⅱ_B,これからのピアノ表現Ⅲ_AB,これからのピアノ表現Ⅳ_AB,演奏会実習,ピアノ
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	ピアノ音楽コースの完成年度にあたり新カリキュラムとなった卒業研究の授業を担当する。大学4年間の学びの総括となるよう指導をおこなう。演奏会実習やこれからのピアノ表現などの授業では、学生個々にとっての学びとなるよう授業展開をある程度柔軟にし、新鮮な気持ちで学べる時間にする心をかける。また修士の主科を担当するにあたり、研究と実技の両立やそれらを相互に応用する思考を持てるような指導を行う。
2024年の教育に関する自己評価	実技レッスンでは日々の練習の質が向上するように、各レッスンの目的と次のレッスンまでの目標を明確にするよう努めた。またピアノ演奏家コースの演奏会実習の授業では、管弦楽曲を中心としたプログラムに取り組むことで学生が新たな興味を持って演奏に臨めるように授業を展開した。
2024年のFD活動に関する自己評価	それぞれのFD研修会が現況を把握し今後を考える場として参加した。環境や価値観など加速的に変化してゆく時代にあって、本学も2025年度からのセメスター制移行や、芸術工学部設置など大きな変革が続いてゆくため、日常の指導やその他の業務の中でも常に、今後よりよい大学教育のためにどのような変化が必要かを考える。
授業改善のために取り入れた研修内容	クラス授業であっても学生個々の学びとして有意義なものにしつつ、互いの学修から刺激を受けて学生自身が今後へどうつなげてゆくかを考えるように授業を展開した。さらに担当する数科目では授業の進行を柔軟にし、また授業外の時間にも必要に応じた相談や実技担当教員との連携をはかることで、多様な事情を抱える個々のケースへの対応も行った。

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2802 教員名:尾崎 有飛

1)アンケート結果に対する所見

「これからのピアノ表現Ⅱ」の授業に対する予習復習時間について、アンケートの数値上は学生個々の差がみられる。科目では初見演奏や即興演奏、楽曲分析、音楽と文学の結びつきについての考察など、多くの事柄に取り組んでおり、課題に対する達成方法も得意なアプローチも異なるため、各自自分なりの取り組み方が出来ていることがここに反映されていると捉えられる。またこの科目の目標の一つとして、楽譜とどのように向き合うかということを重視しており、授業内容は主科実技の学修と密接に結びついている。そのため実際には学修曲の楽曲分析やテクニック面での探求などを通して、この授業で学ぶことの実践として応用方法を学んでいることを授業内でも今後強調してゆく。

2)要望への対応・改善方策

「これからのピアノ表現Ⅰ～Ⅲ」ではこれまでの授業の方向性を維持しつつ、新たな題材や内容を取り入れる。それによって和声やソルフェージュ、音楽史など様々な授業を演奏にリンクさせてゆく意識を養う授業としての役割を強化する。2025 年度よりセメスター制へ移行したことによる 100 分という余裕のある授業時間を生かして、考えて発言する時間を拡大し、1 回ごとの授業の濃密な学びを目指す。また全ての授業に共通することとして、学生個々が必要性や興味をもって予習や復習を行ったうえで授業に臨むことが出来るよう、授業展開を工夫する。具体的には、他者の発表や発言に対するフィードバックを学生同士で行うことによって、何を準備し考えておく必要があるのかということへの気づきを促してゆく。

3)今後の課題

大学での学びとして、すでに学んだ事柄に再度出会ったとき、様々な事柄をリンクして考察を深め、応用することへの興味を持つこと、そしてその力を身につけてゆくことが非常に重要である。ディスカッションだけでなくグループワークなども活用することで、様々な視点から演奏する楽曲や鑑賞する作品に接することが出来るように授業を展開する。

ピアノ演奏家Ⅰコース必修の「演奏会実習」では、他者の演奏に対するフィードバックをすでに学生間で実施しているが、卒業後にピアノの指導者を目指す学生も多いことから、授業内で指導法に近いアプローチも今後必要になると考えている。単なるフィードバックにとどまらず、演奏に対してアドバイスをするための聴き方、コメントをする上での要点の掴み方、フィードバック後の演奏の変化にさらにどのようなアプローチが可能かなどを考える時間として内容を発展させる。

以 上